

今期の所蔵作品展「MOMAT コレクション」の中から、みつつの見どころを紹介します。

所蔵作品展「MOMAT コレクション」 2022年10月12日（水）—2023年2月5日（日）

小特集 プレイバック「抽象と幻想」展（1953-1954）

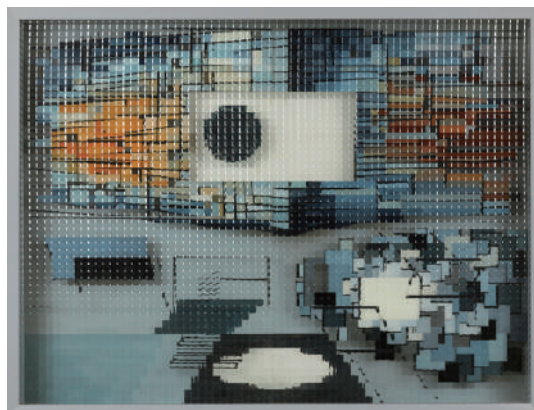
所蔵品ギャラリー 3階7室・8室

69年前の実験！

当館は2022年12月に開館70周年を迎えます。今回のMOMATコレクション展では、初期の重要な展覧会である「抽象と幻想 非写実絵画をどう理解するか」展（1953年12月1日～1954年1月20日）を振り返ります。開館1周年を迎えるにあたって行われた「抽象と幻想」展は、名品を並べるという従来型の展示とは異なり、同時代の作家を特定のテーマの下で取り上げる新しい試みでした。「抽象」と「シュルレアリスム（幻想）」というモダンアートの二大潮流をめぐって構成された展覧会とは、果たしてどのような内容だったのでしょうか。7室では、残された資料や記録を元に制作した再現VRを投影します。VRを通して、当時の展示空間を追体験してみてください。8室では、「抽象と幻想」展の出品作品を中心に50年代の作品を展示しています。初期の実験的な展覧会をリアルとヴァーチャルの両面でお楽しみください。



1. 長谷川三郎「抽象と幻想」展 展示パネル（部分）1953年



2. 山口勝弘《ヴィトリヌ No.47（完全分析方法による風景画）》
1955年



「MOMAT コレクション」では、13,000点を超える所蔵作品から選りすぐりの約200点を、会期ごとに3フロア、12の部屋に分けて展示します。19世紀末から現代までの日本美術の歴史を、海外作品も交えながら、毎回多様な切口で紹介しています。

【プレスリリース お問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 小川・堀田

TEL: 03-3214-2565（直通） FAX: 03-3214-2576 Email: pr-f@momat.go.jp

「解体と再構築」

所蔵品ギャラリー 4階3室

世界の不安と表現の模索

当館のコレクションの中でもとりわけ充実している1920-30年代。第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけての時期は、既成の概念や枠組みを超えようとする新しい表現が次々に生まれた時代です。たとえば、対象を断片化・変形して抽象化を進めたり、新聞紙や壁紙など、もとは別の機能を持っていた素材の断片を画面に取り込んだりして、イメージの解体と再構築を試みるような作品が多く現れます。一方で、そういった前衛的な表現と正反対にも見える、素朴さや原始性への憧れ、あるいは古典古代の再発見など、根源性や普遍性への関心が高まったのもこの時期の興味深い特徴といえるでしょう。こうした模索の背景には、大戦によって世界が受けた傷の深さや、次なる戦争への不安の高まりといったものがうかがえます。



3. 村山知義《コンストラクション》1925年



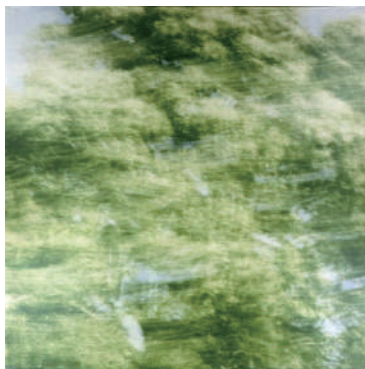
4. 古賀春江《海》1929年

「80年代のニューフェースたち」

所蔵品ギャラリー 2階12室

新時代の新進気鋭

企画展ギャラリーで開催する「大竹伸朗展」(11月1日～2月5日)にあわせて、大竹が注目を集めるようになった1980年代の日本にスポットを当てます。この時代には、「ニュー・アカデミズム」「ニュー・ミュージック」「ニュー・ペインティング」といった言葉に象徴されるように、新しい価値に支えられた現象が次々と生まれました。広告文化や雑誌文化が花開き、現代思想がもてはやされ、サブカルチャーが興隆。美術の世界では、大衆文化のイメージを取り込んだ作品や、空間に作品を展開するインスタレーションなど、新しい表現が次々と試みられるようになりました。ここでは、当館のコレクションから、大竹と同様、80年代に若くして活躍するようになった作家たちの作品をご紹介します。



5. 秋岡美帆《そよぎ》1988年



6. 中村一美《方法を持つ者IV》1991-92年

【プレスリリース お問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 小川・堀田

TEL: 03-3214-2565 (直通) FAX: 03-3214-2576 Email: pr-f@momat.go.jp

開催概要

タイトル：所蔵作品展「MOMAT コレクション」（しょぞうさくひんでん もまっとこれくしょん）
（英）Collection Exhibition MOMAT Collection

会場：東京国立近代美術館所蔵品ギャラリー 4階から2階

会期：2022年10月12日（水）—2023年2月5日（日）

休館日：月曜日 [ただし1月2日、1月9日は開館]、年末年始（12月28日～1月1日）、
1月10日（火）

開館時間：10:00—17:00（金曜・土曜は10:00—20:00）※入館は閉館30分前まで

観覧料：一般500（400）円／大学生250（200）円

※（）内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 ※金曜・土曜の17時以降は、割引料金。一般300円、大学生150円。
※高校生以下および18歳未満、65歳以上は無料。※障害者手帳をご提示の方とその付添者（1名）は無料。

無料観覧日：11月3日（文化の日）

住所：〒102-8322 千代田区北の丸公園 3-1

アクセス：東京メトロ東西線「竹橋駅」（1b出口）徒歩3分

一般のお問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

ウェブサイト：<https://www.momat.go.jp>

主催：東京国立近代美術館

同時開催：企画展「大竹伸朗展」2022年11月1日（火）—2月5日（日）

公式サイト <https://www.takeninagawa.com/ohtakeshinroten/>

「大竹伸朗展」のチケットで、入館当日に限り所蔵作品展「MOMAT コレクション」も
ご覧いただけます。

※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、開催内容、開館時間等が変更になる可能性があります。
最新情報はウェブサイトにてご確認ください。



東京国立近代美術館は、皇居のほど近くに建つ、日本で最初の国立美術館。1952年に開館し、2022年12月1日に開館70周年を迎えます。最大の特徴は重要文化財15点（うち2点は寄託）を含む13,000点を超える国内最大級のコレクション。19世紀末から今日まで、国を代表する多数の名作を所蔵しています。都会の真ん中でありながら自然豊かなエリアに位置し、最上階の休憩室「眺めのよい部屋」からは、皇居の緑と丸の内ビル群のパノラマ・ビューをお楽しみいただけます。

【プレスリリース お問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 小川・堀田

TEL: 03-3214-2565（直通） FAX: 03-3214-2576 Email: pr-f@momat.go.jp